

# 日々の祈り

2021年11月29日(月)~12月4日(土)

宮崎中部教会



## <はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

## <使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

## <今週の祈りの課題>

- ・この世に来て下さった神の御子イエスさまを覚えて、悔い改めと感謝をもってアドベントの日々を歩むことが出来るように。
- ・一人でも多くの方が救いの恵みに与ることが出来るように。
- ・教会の「アドベントブック」に従って、兄弟姉妹の名前をあげてお祈りしましょう。

## 29日(月)

ルカによる福音書 19章 33~35節

ろばの子をほどこしていると、その持ち主たちが、「なぜ、ろばをほどくのか」と言った。二人は、「主がお入り用なのです」と言った。そして、ろばをイエスのところに引いて来て、その上に自分の服をかけ、イエスをお乗せした。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。イエスさまは、旧約聖書に預言された、来たるべき「あなたの王」です。このあなたの王は、神に従い、勝利をあたえられた者、高ぶることなく、ろばに乗って来られる方です(ゼカリヤ9:9)。軍馬はもはや必要ありません。この方は平和を告げるために来られたからです。イエスさまは、平和の王としてエルサレムへ入られます。そして、裏切り者や敵対する者を攻め滅ぼすのではなく、むしろご自分の命を与えて神さまとの和解を与え、わたしたちをまことの平和へと招いて下さるのです。

## 30日(火)

ルカによる福音書 1章 30~33節

すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」

神の御子イエスさまは、まことの人となって世に来られました。飼い葉桶に寝かされ、貧しさ、弱さ、惨めさ中でお生まれになったこの方こそ、ご自分の十字架の苦しみと死によって、わたしたちの上にまことの平和のご支配を打ち立てて下さる王なのです。そのご支配は、永遠に終わることがありません。

12月1日(水)

コリントの信徒への手紙二 5章 20節~6章 2節

ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません。なぜなら、「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた」と神は言うておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。

救い主は来られました。救いの御業は成し遂げられました。イエスさまがすべての者の罪を贖って下さったゆえに、今や、すべての者に和解の御手が差し出されています。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。今が、この手を握り返す時であることを、すべての人が知らなければなりません。

2日(木)

エゼキエル書 33章 11節

彼らに言いなさい。わたしは生きている、と主なる神は言われる。わたしは悪人が死ぬのを喜ばない。むしろ、悪人がその道から立ち帰って生きることを喜ぶ。立ち帰れ、立ち帰れ、お前たちの悪しき道から。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか。

神さまは、御心に背き、滅びに向かうわたしたちを、生かしたいと願っておられます。わたしたちが悪しき道から離れて、神さまの御許に立ち帰り、神さまと共に歩む者となることを望んで下さっています。そのために、神さまは一体どれだけのことをなさって下さったのでしょうか。「立ち帰れ、立ち帰れ」。御子が架けられた十字架の上から、わたしたちに呼びかける御声が響きます。

3日(金)

イザヤ書 29章 1~4節

ああ、アリエルよ、アリエルよ／ダビデが陣を張った都よ。年毎に、祭りの数を増し、巡り来らせよ。そのとき、わたしはアリエルを苦しめる。アリエルには嘆きと、ため息が臨み／祭壇の炉(アリエル)のようになる。わたしはお前を囲んで陣を張り／砦を築き、城壁を建てる。お前は倒されて地の下から語り／お前の言葉は塵の下から鈍く響く。

次の主日礼拝の御言葉です。これはエルサレム(アリエルは別称)が罪によって審かれるという厳しい警告です。このように嘆きとため息に覆われ、倒されても仕方がないほどの罪を、民は神さまに対して犯してきたのです。しかしそれでも、神さまが憐れみ深い方であるというただその理由のために、和解の道は開かれました。

4日(土)

ルカによる福音書 19章 41~42節

エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、言われた。「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。…」

明日の主日礼拝の御言葉です。イエスさまは「泣いて」おられました。イエスさまが涙を流される場面は滅多にありません。イエスさまはまことの王としてエルサレムに入ろうとしておられます。これは従来より神の民が待ち望んでいた神との和解の時であり、まことの平和がもたらされる時です。しかし、人々はそれをわきまえていない。目の前に救い主が来ておられるのに、神さまの御心が分からずに、それを見ようとせず、受け入れず、平和への道に来ようとしない。それが神さまにとって、またご自分の命によって平和を与えようとしておられるこの王にとって、どれほどの悲しみであるかを知らされます。

聖句：日本聖書協会『聖書 新共同訳』